

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

旧年中は当館の活動にひとかたならぬご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当館は、昨年もクラウドファンディングによる支援募集をおこないました。昨年の第4弾プロジェクトでは、平成27年度の図書館事業費の一部と共に、戦後70年となった平成27年に行うべき事業として、昭和20年[1945]から昭和24年[1949]にかけてGHQにより検閲が行われた歌舞伎台本300冊をデジタル化するための資金を募集しました。そして50日間の募集期間で238名の方より287万8千円のご支援を頂き、プロジェクトを無事成立させる事が出来ました。貴重な演劇資料を後世に伝えたいという今回のデジタル化事業は、多くのご賛同を得て、支援者の皆様に温かい応援・ご支援を頂きました。皆様の熱い思いがこもったコメントを拝読し、スタッフ一同気を引き締めて業務にあたっていました。本年はいよいよ第3弾のご支援でデジタル化を行った「芝居番付」のアーカイブもWeb公開を開始致します。皆様の思いと支えを抛り所として、さらに充実した演劇と映画の専門図書館を目指し、これからもスタッフ一同努力してまいります。

本年も当館の活動にご理解・ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

松竹大谷図書館 職員一同

≫≫ お知らせ

●第44回 大谷竹次郎賞 決定●

大谷竹次郎賞は、その年の1月から12月に各劇場の公演において、歌舞伎俳優によって演じられた新作歌舞伎および新作歌舞伎舞踊のなかで優れた脚本に贈られる賞です。

平成27年度 第44回大谷竹次郎賞は、下記の通り決定いたしました。

■今井豊茂 脚本『あらしのよるに』平成27年9月南座上演

■横内謙介 脚本『スーパー歌舞伎Ⅱ ワンピース』平成27年10・11月新橋演舞場上演

『あらしのよるに』は、きむらゆういち氏のベストセラー絵本を題材に歌舞伎としてまとめあげた作品、『スーパー歌舞伎Ⅱ ワンピース』は、尾田栄一郎氏の大ヒット漫画『ONE PIECE』を舞台化した作品です。それぞれが異なる手法により歌舞伎脚本の新たな可能性を広げて強いインパクトを演劇界に与え、歌舞伎の新たな観客を開拓した点が評価されました。

なお、2作品同時の受賞は、昭和54年[1979]以来、36年ぶりとなります。

授賞式は1月25日に行われる予定です。

■ 松竹系 12月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『本朝廿四孝 十種香』	○			
	『赤い陣羽織』	○			
	『重戀雪関扉』	○		○	○
	『通し狂言 妹背山婦女庭訓』	○			
新橋演舞場	『舟木一夫特別公演』			○	○
松竹座 (大阪)	『関西ジャニーズ Jr . X'mas Show 2015』				
南座(京都)	『碁盤太平記』	○			
	『義経千本桜 吉野山』				
	『心中天網島 河庄』	○			
	『土蜘蛛』	○			
	『信州川中島合戦 輝虎配膳』	○		○	○
	『四代目中村鴈治郎襲名披露口上』				
	『土屋主税』	○			
『勸進帳』					

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

あうるすぽっと	12月	トム・プロジェクト『東おんなに京おんな』プログラム
吉祥寺シアター	12月	劇団山の事情社『タイタス・アンドロニカス/女殺油地獄』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	11月	劇団青年座『からゆきさん』プログラム、台本 劇団東演『明治の枢』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	12月	加藤健一事務所『女学生とムッシュ・アンリ』プログラム
国立劇場小劇場	11月	『雅楽公演 大曲盤渉参軍を聴く』プログラム 『舞踊公演 舞の会 京阪の座敷舞』プログラム
国立劇場大劇場	12月	『東海道四谷怪談』プログラム
こまばアゴラ劇場	11月	『平田オリザ演劇展 v o l . 5』プログラム、台本
座・高円寺1	12月	猫のホテル『高学歴娼婦と一行のボードレール』プログラム
	11月	燐光群『お召し列車』プログラム
サンシャイン劇場	11月	劇団スーパー・エキセントリック・シアター『虹を渡る男たち』プログラム
シアターオーブ	12月	『CHICAGO』プログラム
シアタークリエ	11月	『ブロッキンの妖怪』プログラム
シアタートラム	12月	『リペア』プログラム
	11月	『スポケーンの左手』プログラム
新宿眼科画廊	12月	KAKUTA『痕跡 (あとあと)』プログラム
	12月	特別公演『鶴的第一短編集』プログラム
新国立劇場中劇場	11月	ピーター・ブルック『バトルフィールド』プログラム
SPACE梟門	12月	外波山文明ひとり芝居『四畳半襖の下張り』プログラム
スペース・ゼロ	12月	『Club SLAZY』プログラム
帝国劇場	11月	『ミュージカル ダンスオブヴァンパイア』プログラム
東京芸術劇場アトリエウエスト	12月	リーディング&トーク『紛争地域から生まれた演劇7』プログラム
東京芸術劇場シアターウエスト	12月	劇団チョコレートケーキ with バンダラコンチャン『ライン (国境) の向こう』プログラム
俳優座劇場	12月	シェイクスピア・シアター『ロミオとジュリエット』プログラム
博多座	12月	『博多座文楽公演』プログラム、床本
博品館劇場	11月	T o k y o七福神GEKIJO『プリンス・カグヤ』プログラム
	12月	DIAMOND★DOGS『Again Shangri-La』プログラム
パルコ劇場	11月	パルコ・プロデュース公演『オレアナ』プログラム
三鷹市芸術文化センター星のホール	12月	城山羊の会『水仙の花』プログラム
三越劇場 (日本橋)	12月	劇団民藝『根岸庵律女』プログラム、台本

(新着資料案内 続き)

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『母と暮せば』	○	○	○		○

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------|----------------|
| 『ディーン、君がいた瞬間 (とき)』 | 『クリード チャンプを継ぐ男』 | 『杉原千畝 スギハラチウネ』 |
| 『サンローラン』 | 『007 スペクター』 | 『Re:LIFE リライフ』 |
| 『ハンガー・ゲーム FINAL: レボリューション』 | | 『亜人 第1部「衝動」』 |
| 『エベレスト 3D』 | 『俺物語!!』 | 『劇場版 MOZU』 |
| 『黄金のアデーレ 名画の帰還』 | 『レインツリーの国』 | 『orange オレンジ』 |
| 『I LOVE スヌーピー THE PEANUTS MOVIE』 | | 『ヴィジット』 |
| 『ミケランジェロ・プロジェクト』 | 『ラスト・ナイツ』 | 『ハーモニー』 |
| 『ギャラクシー街道』 | 『メイズ・ランナー2 砂漠の迷宮』 | |
| 『Wake Up, Girls! Beyond the Bottom』 | | |

■ 演劇雑誌 ■

- | | |
|---|----------------------------|
| 『Confetti』2016年 JANUARY | 『国立演芸場公演ガイド』平成28年1月号 |
| 『Confettiかわら本』2015年12月号 | 『神奈川芸術プレス』2015年12月-2016年1月 |
| 『SePT倶楽部 information』
2015年12月号 | 『大向う』平成28年1月号 |
| 『あぜくら』平成27年12月号 | 『伝統文化新聞』2015年(115号) |
| 『つどい』44号 | 『日本演劇興行協会会報』2015年(49号) |
| 『シアターガイド』2016年2月号 | 『日本芸術文化振興会ニュース』平成28年1月号 |
| 『テアトロ』2015年12月臨時増刊号(912号)併
優・タレント養成ガイド2016年度版,2016年
1月号(913号) | 『日本照明家協会誌』2015年12月号 |
| 『ラ・アルプ』2016年1月号 | 『日本舞踊』68巻1月号 |
| 『演劇界』2016年2月号 | 『悲劇喜劇』2016年1月号 |
| 『歌舞伎 研究と批評』2015年(55) | 『文化座』173号 |
| | 『邦楽の友』平成28年1月号 |
| | 『名古屋芸能文化』平成27年(25号) |

■ 映画雑誌 ■

- | | |
|--|----------------------------|
| 『FLIX』2016年2月号 | 『ピクトアップ』2016年2月号 |
| 『NFCカレンダー』2016年1月-2月号 | 『ムービー・スター』2016年2月号 |
| 『NFCニューズレター』2015年12月-2016年1月号 | 『映画テレビ技術』2016年1月号 |
| 『SCREEN』2016年2月号,2015年公開外国
映画 YEAR BOOK | 『映画ビジネス』平成27年12月特別号 |
| 『エキブ・ド・シネマ』2015年No.208 | 『映画時報』2015年9月-10月号,11月号 |
| 『キネマ旬報』2016年1月上旬号,1月下旬号 | 『映画秘宝』2016年2月号 |
| 『シナリオ』2016年2月号 | 『衛星劇場プログラムガイド』2016年1月号 |
| 『シナリオ教室』2016年1月号 | 『京橋映画小劇場 KYOBASHI-ZA』No.32 |
| 『ドラマ』2016年1月号 | 『東映キネマ旬報』2016年冬号 Vol.26 |
| | 『日経エンタテインメント!』2016年1月号 |

■ 書 籍 ■

『時代小説人物事典』	歴史群像編集部（編）	学習研究社
『都市から郊外へ 1930年代の東京』		世田谷文学館+世田谷美術館
『寺山修司 天才か怪物か』		平凡社
『うほほいシネクラブ 街場の映画論』	内田樹（著）	文藝春秋
『僕の体の70%は映画でできている 小島秀夫を創った映画群』	小島秀夫（著）	ソニー・マガジズ
『三つ数えろ！ 映画監督が選ぶ名画3本立てプログラム』		
轟夕起夫（インタビュー+文）、DVD&ブルーレイで一	た編集部（編）	エンターブレイン（発行）
『最強アクション・ムービー決定戦 筋肉と爆発のチャンピオンまつり』	ギンティ小林+映画秘宝編集部（編）	洋泉社
『「殺陣」という文化 チャンバラ時代劇映画を探る』	小川順子（著）	世界思想社
『日本戦争映画総覧 映画黎明期から最新作まで』	川北紘一（監修）	学研パブリッシング（発行）
『時代劇の色気』	島野功緒（著）	講談社
『爆裂！ アナーキー日本映画史 1980-2011』	映画秘宝編集部（編）	洋泉社
『活動屋伝説』	野村盛秋（著）	文芸社
『恋愛映画館』（文庫版）	小池真理子（著）	講談社
『銀幕の大スタアたちの微笑 対談集』	白井佳夫（著）	日之出出版
『女優が語る私の人生 ラジオ深夜便』	石澤典夫+加賀美幸子+迎康子（聞き手）	NHK サービスセンター
『風天（フーテン） 渥美清のうた』	森英介（著）	大空出版
『証言日中映画人交流』	劉文兵（著）	集英社
『愛すればこそ スクリーンの向こうから』	香川京子（著）、勝田友巳（編）	毎日新聞社

資料をご寄贈くださった方々（敬称略・順不同／2015年10月～11月）

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、演劇出版社、株式会社日本舞踊社、国立劇場、劇団四季、日本ウニマ（国際人形劇連盟）、大野彩、帝国劇場、劇団銅鑼、オペラシアターこんにゃく座、関西・歌舞伎を愛する会、日本映画テレビ技術協会、博多座、俳優座劇場、キネマ旬報社、文学座、無声映画鑑賞会、日本映画テレビプロデューサー協会、東京都江戸東京博物館、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、一般社団法人日本民間放送連盟、明治座、こまつ座、秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場、劇団青年座、公益社団法人日本演劇興行協会、ポーラ文化研究所、ディアゴスティーニ・ジャパン、前進座、株式会社カモミール社テアトロ編集部、シアタークリエ、公益社団法人日本照明家協会、伝統文化新聞、東宝株式会社、福島尚武、岩波ホール、ロングランプランニング株式会社、佐々木八重子、中原逸郎、フィルムセンター、(株)近代映画社、上田由香利、人形劇団プーク、劇団民藝、正木保男、株式会社新潮社、白水社、株式会社東急文化村、劇団昴、邦楽の友社、劇団朋友、アーティストジャパン、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、テアトル・エコー、独立行政法人国際交流基金、博物館明治村、国文学研究資料館、筑摩書房、パルコ劇場、流山児★事務所、新歌舞伎座、劇団俳優座、おもだか会、銀座百店会、劇団鳥獣戯画 知念正文、シナリオ・センター、株式会社 岐阜新聞社、岡部企画、株式会社ホリプロ、山本一郎、日本劇作家協会、日本近代文学館、御園座、劇団若獅子、若林さだ吉、映画論叢、日本映画撮影監督協会、銀座 博品館劇場、愛知芸術文化センター、日本劇団協議会、株式会社サンシャイン劇場

どうもありがとうございました

「山田洋次監督」展第四弾～『男はつらいよ 柴又慕情』より『^{はらから}同胞』まで～

展示期間：2016年1月8日～2016年3月2日／於 閲覧室



2015年12月12日に公開され、現在もヒット中の『母と暮せば』、2016年3月12日公開の待望の喜劇『家族はつらいよ』と、連続して新作が上映される山田洋次監督の作品資料をご紹介します。

第4弾の展示は、第9作『男はつらいよ 柴又慕情』(1972年)より『^{はらから}同胞』(1975年)までの9作品です。『男はつらいよ』シリーズは、新作が公開されるたび観客動員数を更新し、ついには松竹本社宣伝部内に専門の「寅さん課」が設置され、人気はいよいよ増していきました。一方で山田監督は、寅さんシリーズ以外の作品にも精力的に取り組みます。1970年に発表した『家族』に続いて1972年に『故郷』、1975年には『^{はらから}同胞』を発表。これら三部作は、近代化していく世の中、社会的な問題に追われながらも、自然やふるさとへの思慕を抱いて生きていく人々に焦点を当てた名作です。

◆展示資料作品一覧◆

『男はつらいよ 柴又慕情』(第9作)1972年公開

●スチール、台本

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆／主な出演：渥美清、倍賞千恵子、吉永小百合

前作『男はつらいよ 寅次郎恋歌』(第8作)公開時に行った渥美清の相手役のアンケートで1位となった吉永小百合をマドンナ役に起用。北陸・金沢で出会った娘・歌子に寅次郎は思いを寄せるが、歌子は二人暮らしの父親と恋人との結婚問題の間で悩んでいた。

『故郷』1972年公開 ●カラーズチール

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：宮崎晃

主な出演：井川比佐志、倍賞千恵子

『家族』(1970年)に続き、井川比佐志、倍賞千恵子が役名も同じ夫婦役で出演。瀬戸内海の美しい島で「石船」と呼ばれる船で石を運ぶ仕事をしながら暮らしていた夫婦が、工業化してゆく社会に抗えず、故郷での生活を惜しみながらも島を出ていくまでの話が、愛惜を込めて描かれている。

『男はつらいよ 寅次郎夢枕』(第10作)1972年公開

●スクラップブック(複製)、スチール

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆

主な出演：渥美清、倍賞千恵子、八千草薫

美しくなった幼馴染の千代と再会し、またもや惚れた寅次郎だったが、同じように千代に恋をする男が現れ、なぜか恋愛指南をする羽目になる。寅次郎が初めてマドンナから告白されるという異例の展開の作品。

『男はつらいよ 寅次郎忘れな草』(第11作)1973年公開

●スチール、台本

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：宮崎晃、朝間義隆

主な出演：渥美清、倍賞千恵子、浅丘ルリ子

シリーズに四度出演し、人気 No.1 マドンナでもある浅丘ルリ子のリリーが初めて登場した作品。北海道で出会った薄幸の三流歌手のリリーに自分と近いものを感じた寅次郎は同情心から世話を焼き、いつしかそれは恋心と変化していく。

『男はつらいよ 私の寅さん』(第12作)1973年公開

●「キネマ旬報」622号、スチール

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆

主な出演：渥美清、倍賞千恵子、岸恵子

松竹で数々の名作に出演した岸恵子がマドンナとして、

初めて喜劇に参加した作品。さっぱりとした人柄の志高い女流画家に、最初はぶつかりながらも徐々に惹かれていく寅次郎の姿が描かれる。

『男はつらいよ 寅次郎恋やつれ』(第13作)1974年公開

●カラーズチール

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆

主な出演：渥美清、倍賞千恵子、吉永小百合

第9作『柴又慕情』に続き吉永小百合が登場。女性の再出発と幸せがテーマの作品。寅次郎は夫を亡くし未亡人となった歌子に島根県津和野で再会する。柴又へやってきた歌子を寅次郎は励ますが、歌子の気がかりは喧嘩別れした父親のことだった。

『男はつらいよ 寅次郎子守唄』(第14作)1974年公開

●プログラム付録カレンダー

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆

主な出演：渥美清、倍賞千恵子、十朱幸代

赤ん坊と寅次郎という意外な取り合わせが面白おかしく描かれた作品。旅先で赤ん坊を預かるはめになった寅次郎。赤ん坊を連れて柴又に現れると「とらや」の人々は大騒ぎ。そのうちに赤ん坊が熱を出し、連れて行った病院で、優しい看護婦に寅次郎はまたもや一目惚れする。

『男はつらいよ 寅次郎相合い傘』(第15作)1975年公開

●プログラム、スチール

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆

主な出演：渥美清、倍賞千恵子、浅丘ルリ子

浅丘ルリ子がファンの要望で再登場。離婚して再び流しの歌手となったリリーと函館で再会した寅次郎。リリーは「とらや」に下宿してキャバレーに勤め始め、寅次郎と夫婦のような喧嘩を毎日繰り返す。周囲は結婚を勧め、リリーも承諾。だが、戸惑った寅次郎は冗談で片づけてしまい…。

『^{はらから}同胞』1975年公開 ●チラシ、スチール

原作・脚本・監督：山田洋次／脚本：朝間義隆

主な出演：倍賞千恵子、寺尾聡

『家族』『故郷』に続く三部作の最後を飾る作品。岩手県の農村を舞台に、東京の劇団のミュージカル公演を青年団主催で実現しようとする若者たちの奮闘を描く。岩手山の北麓に位置する松尾村で実際に起きた出来事がテーマとなっている。

*** 専門図書館協議会 資料修復セミナー に参加して ***



開催日時： 平成 27 年 12 月 2 日 午後 14 時～17 時

場所：日本図書館協会

参加者：酒井 恵

長い年月による劣化や、利用による破損などで傷む資料を、またいろいろな人の役に立ってもらえるように補修する。それを実現するのは、ひと手間と、思いの積み重ね。

師走に入ったばかりの 2 日、専門図書館協議会主催の「資料修復セミナー」に初めて参加させていただいた。普段、働く松竹大谷図書館を離れて、初めての場所で講座を受ける少しのドキドキ感と修復セミナーへの期待を胸に、会場へと向かった。

会場では、4 人ごとに座るようにセットされた机が 3 か所。それぞれの席の前には、本が 2 冊、ヤマト糊、様々な厚さの和紙などが置かれていた。

時間になり、書籍修復家・岡本幸治先生のととても穏やかな口ぶりと物腰で、早速セミナーが開始。

一番初めに教えてもらったのは、“糊（のり）”の作り方。補修をするときに大事なのは、10 年後、20 年後にでも、再び補修をやり直そうと思えばできるように修理をすること。そのために、きめが細かく、かつシミにならない“糊”はとても重要になる。

小麦粉のデンプンからタンパク質を取り除いた粉末を使用して作る「生麩糊（しょうふのり）」は、古くから表装などにも使われている最も安全で信頼できる糊。

作り方は、その粉末と、不純物が少ない精製水をよくかき混ぜることから始まる。

そして電子レンジで温めてはかき混ぜ、また温めてかき混ぜたあと、粗熱をとり、裏ごしをしたら完成。

本にやさしい糊を作るには、少しずつ温めたり、裏ごしをしたりというひと手間が大切なのだとか。

もう一つは市販のヤマト糊と精製水を混ぜてつくるもの。こちらも少しずつ水を入れながらかき混ぜるのがポイント。



裏ごしの作業中。生麩糊完成まであとわずか

糊づくりのあとは、2 パターンのページ破れの修理についてだった。

手でページを破いてしまったものと、カッターなどの刃物で切ってしまったものだ。

手で破いてしまったものは、読んでいて思わず破いてしまった、と想像に難くない。

カッターでの破れといえは近年、全国の図書館で本の切り取りや切抜きなどの破損被害が後を絶たない。



左ページはカッターで切った箇所
右ページは手で破いた箇所

悲しいことだが、カッターなどで切り取られたページもこの修理方法を知っていれば、同じ種類の本をコピーして、欠損箇所を補うこともできるから、この 2 パターンを今回教えていただいたのではないか、と思いを巡らせながら作業に取り組んだ。そんな修復作業は、文字の上から貼っても、下の文字を隠さずに読める薄さの和紙を使って行う。

基本的には、和紙を修復箇所に貼るということは変わらないが、その貼り方の対応が、ページをつなぐために上から面で貼るものと、切れ目を境に片側は上、片側は下に当てて貼るものと、少し変わってくることを学んだ。

その次は、見返しの破れ。

目に見える見返しだけを直すのではなく、元々の本の構造を考えて、その隣にある「遊び紙」を外すなど、敢えて壊してから修理を始めたほうが、本にとって、負担を軽減させることができるのだという。

見返しの次は、背表紙の破損について。

本を手にする際に、指を掛けてしまいがちな背表紙の上部分が、はがれてしまった時に、“クータ”という紙の筒を作って、その間に入れてあげることで、本を開いたときにも負担が少なくなる。

ページ破れや見返しの時同様、先生のお手本のあとに、“クータ”作りから実践。

いつの間にか同じ机になった人たちとも確認しあいながら、和気あいあいと作業が進む。

3時間にも及ぶ講座の最後は、無線綴じ本の修理について。



どこに穴を開けるか採寸中

無線綴じ本とは、その名前の通り、ページを糸で綴じていない本を指す。ひとたびページが外れると、本のノドの部分に外れたページを糊で貼るか、または、本全体を糸で縫って、ページが外れないようにしていかなければならない。今回教わった無線綴じ本の修理の方法は、本のノドの部分にドリルで4か所ほど穴を空けて、ろうでコーティングした糸で縫っていくというもの。



ドリルで糸を通すための穴を開ける

糊づくりから始まり、無線綴じ本の修理まで、3時間の濃密なセミナーが終了。

先生の教えをうかがって、特に胸に残った言葉があった。

「補修に使う和紙を破れたページと同じ色に染める、つきつめてやろうと思えばいくらでもできる。でも、そこまで労力をかけるべきことなのか、色は違っても、文字が読めて、本の役割を果たせる。まずは、機能回復を最優先することが大事」。



書籍修復家の岡本幸治先生

補修、ひとたびやりはじめれば楽しく、本を直せた喜びを得られる。知れば知るほど奥が深い。そんなことを感じたセミナーだった。

今後もっとたくさんの本を修理していけるように、「まずは機能回復を最優先」という言葉を心に置きながら、実践していきたい、そう改めて実感した3時間だった。



見返しの破れ修復後。元の構造よりもページが開きやすくなった

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実に永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2015（平成27）年12月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

■ 編集後記 ■

▼ 明けましておめでとうございませう。図書館は8日から開館し、スタッフ一同、皆様のご利用をお待ちしております。本年も松竹大谷図書館をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

▼ 年末年始は、例年になく、とても暖かい日々が続きましたね。寒い日用に新しいダウンジャケットを初春バーゲンで買おうかと思っていたのですが、この陽気のため、もしかしたら必要のないのでは…と考えてしまい、あまり買う気になれないままです。このまま暖かい日々が続くのか、それとも一気に寒くなるのか、気になるところです。（あ）

▼ 年末に、川崎市民ミュージアムで開催中の「江口寿史展 KING OF POP」を目指してドライブ。同じ方角を目指し何台もの新潟ナンバー車が周囲を走る事に疑問を感じつつ、ミュージアムに向かった所、駐車場がどこもかしこも満車でした。しかたなく離れた駅に車を止め、バスでミュージアムまで行きましたが、何事!?!と思ひ、ネットで調べたところ、なんとミュージアムに隣接する等々力陸上競技場で、澤穂希選手の最後の公式戦、皇后杯の決勝（神戸VS新潟）が行われる日だったので。そんな記念すべき日なら、駐車できないのは当然で、バスも試合を観に行く重装備のサッカーファンたちでぎゅうぎゅう詰めでした。やっとの思いで辿り着いたミュージアムでしたが、バスではファンの人たちの熱い会話を楽しめ、展示も未見のイラスト中心でも素晴らしかったので、良い年末の思い出となりました。澤さん、お疲れ様でした！（M）

● 利用案内 ●

開館時間

平日午前10時～午後5時

休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間

※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。

閲覧 館内閲覧のみ
入館料 無料

● 交通案内 ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

